

2点とも「Qubibi」展より
 左—Diagolus 2017年
 右—告白 2016
 © Digital Arts Association



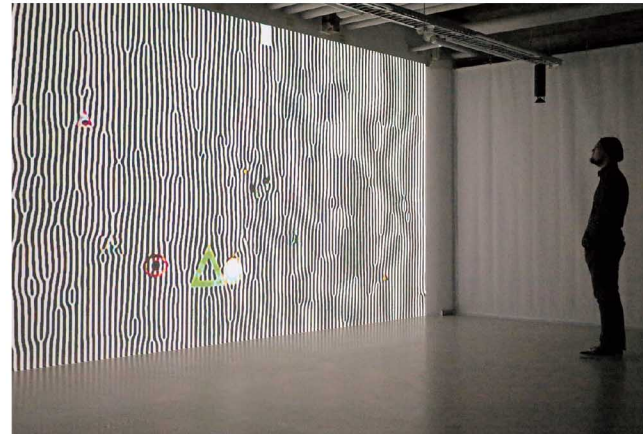
3点とも「マルグリット・ユモール
 (最後のビート)」展より
 右上—人類へのモニュメント
 2017
 左上・下—スフィンクス・オット
 は人類を虜にしてきた 2017
 Courtesy of the artist and
 CLEARING New York/
 Brussels

アートが活気づくチューリヒ発、 マルグリット・ユモールとQubibiの個展

ダイズム発祥の地であるチューリヒは、昨年ダダ100周年を祝うイベントや展示が行われたほか、アムステルダムを本拠地とするノマド型ビエンナーレ「マニフェスタ」の開催地となり注目を集めた。15世紀から現代に至る幅広い芸術作品の所蔵で知られるチューリヒ美術館は、デイヴィッド・チップパーフィールドが手掛ける新館を引き続き建設中。2020年にオープンするこの新館には、印象派の作品を中心とするエミール＝ゲオルク・ビュルレの全コレクションが移管され、いままです以上にコンテンポラリー・アートの展示にも力を入れるという(ちなみに18年には「至上の印象派展 ビュルレ・コレクション」が東京、福岡、名古屋を巡回する)。このようにアート・シーンの話題で盛り上がるチューリヒから、2つの展覧会を紹介したい。

構成主義やコンクリート・アート、コンセプチュアル・アートの展示を行うハウ

ス・コンストラクティブ美術館とチューリヒ保険が07年から毎年共催する「チューリヒ・アート・プライズ」は、美術館のコンセプトに基づいて制作する優れた現代作家に贈られる賞だ。同館では、今年受賞者であるマルグリット・ユモールの個展が開催されている。フランス出身でロンドンを拠点に活動するユモールは、生物学と有史以前の世界に興味を持ち、太古の人類の生活様式などをテーマにした作品で知られ、昨年のマニフェスタにも参加。ここでは、ユモールがロボットのような架空の生物を造形し、チューリヒ工科大学のエンジニアがプログラミングを担当するという共同制作が行われた。本展も、神話に登場するスフィンクスに関するリサーチから始まり、石像が見る者に驚異を与えることで外敵から人を守る役割を担っていたという推測からインスピレーションを得た。翼とライオンの顔を持つ巨大な動物の彫刻とともに、展示空



「Qubibi」展より
 Hello world 2017 © Digital Arts Association



「Qubibi」展より
 MUNDA 2017
 © Digital Arts Association

「マルグリット・ユモール」
 展(最後のビート)展
 Marguerite Humeau:
 RIDDLES (Final Beats)
 10月26日～2018年1月14日
 ハウス・コンストラクティブ美術館
 Museum Haus Konstruktiv
 * Selnaustrasse 25, Zürich
 Tel. +41-44-217-70-80
 11:00～17:00(水～20:00)
 月休

間には低い鳴き声が響き渡り、吊るされたライトパネルが反応して神々しさを演出する。もうひとつの作品は、古代の中国皇帝の墓をイメージした彫刻と、人類の誕生から現在までの人口とされる1080億の声の集合体のようなものから成るインスタレーション。展示室の色彩のインパクトも相まって奇妙な空間となっていた。過去と現在、未来を特異なスケール感でつなげていくユモールの作品は、はるか昔のストーリーにファンタジーの要素も取り入れた現代的な表現であり、そこには科学技術とともにある情報／監視社会への問いも読み取れる。

そして昨年オープンしたデジタル・アートのための美術館MuDAでは、デザイナーでアーティストのQubibi(勅使河原一雅)による世界初の個展が目玉となった。勅使河原の自伝的なアニメーション作品《告白》から始まる本展は、新作を含む主にインタラクティブな映像8点を展

示。体の汚れと同じく、扱いにくい自分の感情を洗い出すことができるというアイデアから生まれた《MUNDA》は、モニターに指を滑らせると、映し出された人物がせわしなく身体を洗う。男女の顔が浮かび上がり、口型のハンド・パペットを操作すると彼らが声を出してコミュニケーションするような《Diagolus》は、途中で飛行機の騒音が入ると声が聞こえなくなるというユーモアも面白い。最後の展示室で流れる、一度として同じフォームを持たないアブストラクトな映像作品《Hello world》には、どこか人生のようなストーリーを感じるいっぽうで、ほぼ無心の状態でいつまでも見続けられるような心地よさがある。実際に、この展示室に長時間居座る観客も多いとか。デジタルな世界のなかでも確かに触れることのできる、人間性とオリジナリティ。チューリヒの美術館がいち早く彼の仕事を紹介したことに納得がいく。

Zürich チューリヒ

かないみき=文
 Text by Miki Kanai
 (Art Journalist)

「Qubibi」展
 Qubibi
 9月9日～2018年1月28日
 MuDA
 Museum of Digital Art
 * Pfingstweid St 101,
 CH-8005 Zurich
 Tel. +41-44-533-83-96
 11:00～19:00 月休